

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	ウインディ広瀬川
2 指定管理者	社会福祉法人緑仙会
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 4,620人(前年度比 121.0%) 令和5年度 3,817人(前年度比 93.4%) 令和4年度 4,085人(前年度比 100.3%) 《事業》 自立訓練(生活訓練)、宿泊型自立訓練、短期入所
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 - 指定管理者に支払った費用 82,775千円 (75,293千円) - その他市が負担した費用 11,000千円 (201千円) 《収入》 - 使用料収入 54,017千円 (40,426千円) - その他収入 0千円 (0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・令和6年12月に実施した利用者アンケートは12人／12人(100%)、施設の利用に関し、満足又は大変満足が70.5%、普通が28.4%、不満又は大変不満が1.1%という結果であった。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に基づいた管理運営が適切になされている。 自立訓練(生活訓練)・宿泊型自立訓練のサービス提供に意欲的に取り組んでいる。 また、退所した利用者には一定期間中に訪問支援を行うなど、アフターフォローも実施している。	42/42
II 施設の運営管理体制	必要数の職員が配置され、利用者間のトラブルの和解や、服薬管理など、施設利用者への細やかな対応を可能としており、個人情報の管理に配慮したうえで職員間の情報共有も図られている。 また、経理を担当する職員を配置し、適切な経理書類が作成されている。 事故や災害に備えた研修を行っているほか、近隣施設や関係機関と災害時の協力体制を構築するなど、緊急時の体制がとられている。また、施設が土砂災害警戒区域内にあるため、避難計画の作成及び避難訓練も実施している。	25/25
III 施設・設備の維持管理	建物・設備の保全や備品管理については、委託仕様書に沿った適切な管理・取扱いがなされているものの、建物、備品ともに年数が経過しているため、各所に不具合が生じている。 施設内の清掃は定期的に行われており、利用者が衛生的かつ快適に利用できる状態であった。 グリーン購入に関しては、前年度と同様、予算範囲内で積極的に取り組んでいる。	23/23
IV サービスの質の向上	利用者が少しでも早く地域に移行できるよう、関係機関と協力した退院促進支援や宿泊訓練に取り組んでいる。また、施設職員の資質向上や意識啓発のため、外部研修会に職員を参加させるなどの取り組みも行っている。 ホームページでの情報提供や施設のパンフレット作成など、適切な利用情報の提供に努め、施設見学についてはオンラインで実施するなどコロナ禍においても工夫しながら取り組まれている。	28/28
V 施設固有の基準	生活訓練プログラムの月間予定表を作成して、計画的に実施した。生活技術の習得、地域活動への参加と交流、健康増進、生活圏の拡大等の目的のもとに、調理実習、清掃活動等を実施し、利用者の生活技術の向上に努めた。 必要に応じて、利用者家族及び相談支援事業所や医療機関等の各種関係機関との適切な連絡体制の確保も図っている。	12/12

三 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人緑仙会）による自己評価》
ウインディ広瀬川は、指定管理者管理業務協定書及び仕様書に基づく適正かつ円滑な業務管理に努めるとともに、当法人の「第四次中期経営計画（R4～R8）」に即して策定した「令和6年度ウインディ広瀬川事業計画」に基づき事業を実施した。 令和6年度も手洗いや定期的な検温などの基本的な感染対策を継続し、集団感染などを発生させることなく事業運営を行うことができた。 生活訓練（自立訓練）事業では、新規利用者の受け入れに向けて、入院中の利用希望者のために医療機関に出向いてインテーク面接を行ったり、本人の状況に応じて体験利用期間を設定するなど柔軟な対応を行い、11名の新規利用者を受け入れた。 生活訓練プログラムでは、対話やコミュニケーションを目的とした新たなプログラムを導入し、対人スキルの向上に努めた。また、毎月実施している利用者アンケートの内容を反映し、創作活動をしたり、グループ毎に外出するなど楽しみながら生活の幅を広げることができた。さらに仙台市や宮城県の出前講座を活用し、ゴミの分別や口腔衛生、感染症対応について学ぶなどプログラムの充実を図った。 利用者の地域移行については、本人が希望する単身生活やグループホームでの生活に向けて必要な準備を進め、利用者3名がアパートでの単身生活、利用者2名がグループホームへ移行した。地域移行後は訪問等によるアフターフォローを行い、地域生活の定着を図った。 短期入所事業では、関係機関と連携し、利用者の状況に応じて面接対応や金銭預かり、洗濯等の支援も行いながら、利用者や家族が安心して休める環境を提供することで地域生活の安定に努めた。 地域における取組としては、各教育機関との連携のもと看護師及び精神保健福祉士等の専門職養成に係る実習生の受入れを積極的に行ったほか、地域団体で開催した会議やイベントに参加し、関係者との交流が促進されるよう取組んだ。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
令和6年度の管理運営については、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われていた。 本市が重点的に取り組んでいる地域生活移行へ向け、関係機関と関わりながら利用者ひとりひとりに必要な支援を行い実績を上げている。 新型コロナウイルス感染症の5類移行後も手洗いや検温等の基本的な感染対策を実施し、感染者を発生させずに事業を行うことができていた。 新規利用者の受入れについては、医療機関に出向いて入院中の利用者希望者とのインテーク面接の実施や体験利用期間の柔軟な設定に応じることに加え、関係機関と連携し空き状況を共有する等、受け入れに向けた取り組みを進めたことにより令和6年度の利用者数が増加した。 精神保健福祉士養成校の実習生受入や看護学校での講話に加え、家族向け講演会の講話や看護学生の実習受入を継続し地域社会へ貢献した。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課